はくぶつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM 平塚市博物館

VOL 5　NO 3　1980. 6 . 1　TNO 50

6月の花

イヌムギ

5月から6月にかけて、いたる所の道ばたに緑の穂を垂れているのが、このイヌムギです。南アメリカ原産で、明治時代に日本に入ってきた植物ですが、100年あまりの間によくも広がったものだと感心するほど、どこにでもたくさん生えています。

麦の穂が熟して麦畑が黄色く染まる頃を麦秋と言いますが、イヌムギやネズミムギなど外来のイネ科植物におおわれた土手や空地も、その頃一面の枯草色になります。

気候のよい時期にたねを残して枯れてしまうこれらの植物は、やはり日本の植物ではないと感じます。

全館くん蒸にともなう休館のお知らせ

博物館が収集し、保存している有形資料を虫害から守り、保存に万全を期すため、害虫がふ化して活動を始める6月下旬を予定して殺虫燻蒸処置を実施いたします。そのため、下記の期間臨時に休館といたしますのでご協力をお願いいたします。

休館：6月23日(月)～30日(月)

6月の行事

○土曜観察会

参加希望者には、参加のしおりをさしあげますので、ハガキで申し込むか、博物館受付に申し出てください。

6月14日　カエルの声を聞こう　午後5時～8時　千須谷付近

6月28日　帰化植物を調べよう　午後2時～5時　駅～博物館付近

○星を見る会「水星・金星を見よう」

夕方、西空に見える水星と金星を観察します。

日時：6月3日(火)午後6時～8時

メ切りました

○体験学習シリーズ№43「土器を作ろう」

縄文中期、有孔つば付き土器を作ります。

日時：6月10日(火)、17日(火)、18日(水)

メ切りました

○自然観察会「初夏の自然をたずねて」

植物やカエル、ローム層などの観察をします。

日時：6月15日(日)午前9時～午後3時

場所：土屋、琵琶周辺

申し込み：6月5日までに往復ハガキで、応募多数のときは抽選で30名

7月の行事

●体験学習シリーズ№44「星座早見を作ろう」

星座をみつける時に便利な星座早見盤を作り、晴れていたら実際の空で使い方を練習します。

日時：7月29日（火）　午後1時～3時（製作）
　　30日（水）　午後7時～8時（練習）

申し込み：7月15日までに往復ハガキで。なお練習のとき、小学生は父兄同伴で。

材料費：100円、29日に集めます。

定員：40名、応募多数のときは抽選。

●水彩教室

水彩絵具を用いてデッサンを行います。

参加希望者は、往復ハガキに住所・氏名・年令・電話番号を明記すること。全期日出席できる人に限ります。

期間：7月22・23・24・25・26・27
29・30日（8日間）

申し込み：7月5日まで

定員：30名

●自然観察入門講座
「川原の石を調べよう」

相模川の川原石の種類とその由来を調べてみます。

日程：7月24日（木）　市内神川橋川原
　　26日（土）　中津渓谷
　　30日（水）　博物館にてまとめ

対象：小学校4年生以上

申し込み：7月10日までに往復ハガキで。

定員：20名、応募多数のときは抽選。

●星を見る会
「月を見よう」

月令5、2の月を観察します。

日時：7月17日（木）　午後6時～8時

申し込み：7月7日までに往復ハガキで。

定員：30名。応募多数のときは抽選。

●土曜観察会

参加希望者には、参加のしおりをさしあげますので、ハガキで申し込むか、博物館受付に申し出てください。

7月12日「アオバトと磯の動物」

7月26日「つる植物のしかけ」

●博物館「サマーセミナー」募集のお知らせ

博物館では夏休みに小中学生を対象に2泊3日の自然観察と団体生活を体験する会を開催します。

日程：8月12日（火）～8月14日（木）

開催地：南足柄市猿山、県立足柄青年の家

募集対象：小学5年～中学3年までの男女

定員：40名

応募方法：参加希望の方は、くわしい案内書を博物館受付でさしあげます。また、50円切手同封で「サマーセミナー案内書希望」と書いて送ってくだされば、郵送いたします。案内書を読まれた上で、応募用紙に書き込み応募してください。

〆切：7月8日、応募多数のときは抽選。

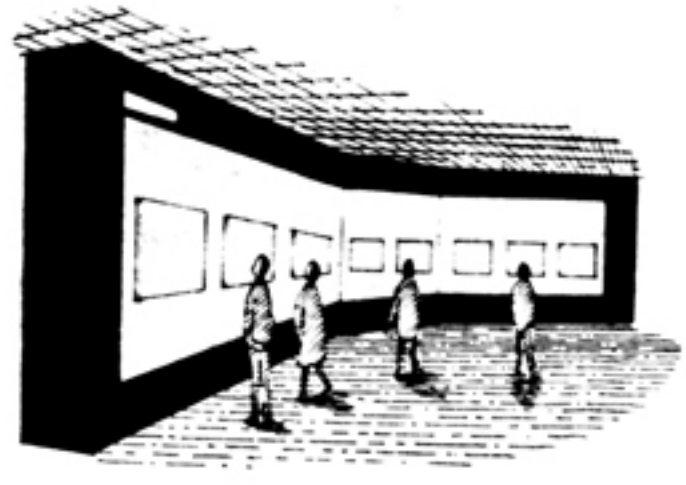
参加費：4,000円（交通費除）

寄贈品コーナー展示替のお知らせ

二宮出身の洋画家二見利節遺作の未公開作品をこのコーナーで紹介してきましたが、今回は第5回目、次の7点を選び陳列いたします。厚紙に油彩を施した果物をモチーフにした静物画です。

陳列期間　6月1日～7月30日

作品	PP－49	静物	紙・油彩
	PP－50	花と果物	紙・油彩
	PP－60	静物	紙・ガッシュ
	PP－75	静物	カンヴァス・油彩
	PP－84	静物	紙・油彩
	PP－89	静物	紙・油彩
	PP－95	静物	紙・油彩



相模の大凧あげ

→1階展示室ホールを見て下さい。

凧（タコ）あげというと今では多くの人が、正月にと思われるでしょうが、実は平塚周辺では5月の節供ごろに凧を作ってあげるというのが一般的でした。

5月の端午（たんご）の節供ごろの凧あげとしては、相模原や座間の大凧が有名ですが、かっては神奈川県内の各地でこの時期に凧あげを盛んに行っていました。相模原や座間では今でも、一辺が8mや10mもある大きな凧をあげています。平塚ではこれ程大きな凧は作りませんが、第二次大戦前までは盛んに行われていました。

市内の例をいくつかあげてみます。市内城所では、5月5日は男の節供で、昔は外幟（そとのぼり）、今は内幟と鯉幟を飾り、カシワモチをつくります。初節供の家へは嫁の実家から人形や幟などをもってきますが、昔は青年たちが初節供のお祝いの出そうな良い家へは、2間半（1間≒1.8m）×3間くらいの凧を作って祝いに行きました。各家では菖蒲湯（ショウブユ）に入り、50年くらい前までは菖蒲屋根といって菖蒲・ヨモギ・カヤを束ねて軒下に刺したといわれています。

凧あげについては、市内須賀でも初節供の家では2間くらいの大きな凧をあげ、北金目でも家のソウリョウ（惣領＝長男）の初節供には、村中の人がいないとあがらない程の大きな凧を作る家もあったといわれています。

このように平塚では、5月の節供ごろに凧を作ってあげるのが普通でした。初節供にあげることが多いのですが、初節供というのは、男の児が生まれて初めて迎える節供のことをいいます。

五月節供の凧あげは、県内では平塚、伊勢原、秦野、小田原、茅ケ崎、藤沢、大和、横浜、さらに座間、相模原などの相模川流域の各地など広い範囲で確認することができます。秦野では5月の節供のことを凧あげ節供ともいっており、凧あげが盛んに行われていたことがよくわかります。

展示された大凧

製作は平塚市大神の中川卓・青木浩一・中川重吉さん。
4月25日製作・展示
糸目の長さは凧の大きさの6倍、シッポは7倍
凧の大きさは縦・横各4メートルあります。
重さは約33kg

図1　五月節供ごろにタコあげをする地域

県外では千葉県の市原や長生郡、埼玉県の庄和町、新潟県の三条市や白根市、静岡県の浜松などの県西部から愛知県東部等で大きな凧をあげています。五月節供の凧あげを全国的にみると、図1に示したように関東・中部地方で盛んなことがわかります。先にあげた他、山梨県や長野県でも5月の凧あげが行われ、滋賀県や愛媛県でもこの時期に凧をあげるところがあります。

以上のことから凧あげは5月の初旬、端午の節供ごろに行うのが一般的であったことがわかると思います。一方、正月の凧あげについては、すでに江戸時代の歳事記には見えており、決して最近の流行でないことがわかります。天保9年（1838）の『東都歳事記』にある「初春路上図」には、四角な凧が尻尾を2本つけ、いくつも並んであがった様子が描かれています。この資料などから考えると、江戸など"町"の風俗としてあった正月の凧あげが次第に周辺の地域に広まっていったと考えられます。正月の凧あげは、子供たちの遊びとして行われ、小さな凧であるのに対し、5月の凧あげは大きな凧をおおぜいであげる点が異なっています。

それでは、なぜ五月節供に凧をあげるかということですが、今のところ、五月節供には御霊（ごりょう）信仰的な要素があり、それをもとにして風流（ふりゅう）としての凧が鯉幟や武者人形とともにとり入れられていったと考えられています。

5月にあげる凧は、この地方では四角いのが一般的です。凧自体は全国にさまざまな形のものがあり、神奈川県でも伊勢原にアブダコといって、虻（アブ）の形をした凧が伝っています。このアブダコは大型のものが神奈川県立博物館のホールに展示してあります。

参考文献

文化庁編『日本民俗地図Ⅰ』国土地理協会
大島建彦「神奈川県の民俗」『神奈川県史研究』
　　33号　神奈川県
神奈川県立博物館『相模川下流域の民俗』

（小川　直之）

はくぶつかん　VOL5 No.3 〒254　平塚市浅間町12－41　印刷　平塚市総務部行政課文書係
通巻50 TEL　0463－33－5111　発行　平塚市博物館 ©3000